

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4678100084
法人名	社会福祉法人 幸風会
事業所名	グループホーム あじさい
訪問調査日	平成 21 年 3 月 10 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 20 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月13日

【評価実施概要】

事業所番号	4678100084
法人名	社会福祉法人 幸風会
事業所名	グループホーム あじさい
所在地	鹿児島県熊毛郡南種子島町仲之上1702-4 (電話) 0997-26-2345

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成21年3月10日
評価確定日	平成21年4月20日

【情報提供票より】(平成 21 年 2 月 10 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 10 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	8 人
利用定員数計	9 人
常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.3 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 〇無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 〇無	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	500 円		

(4) 利用者の概要(2 月 10 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.9 歳	最低 77 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池村医院
---------	------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームあじさいは南種子島の国道58号線から見える特別養護老人ホーム芙蓉苑と隣接している。玄関は家庭的な造りでホールに入ると職員、入居者のもてなしの笑顔が印象的である。運営者は利用者の立場で考えプライバシーの確保の為に居室にトイレ・洗面所を備え、家賃・食事も安価に設定されている。管理者と職員は運営者の考え方を理解し理念を作りあげている。職員と入居者が一緒に野菜の収穫をしたり、洗濯物干し、食事、入浴、散歩、花生け等、どの場面においても楽しそうに話し合いながら行われている。何でも話せる和やかな大家族のような事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題は無い。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価の意義や目的を十分理解され、全職員に資料を配布し昨年の資料を参考にしながら変わったところが無いか確認したり気づきを話し合いながら自己評価の作成を行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3か月に1回開催している。ホーム側から入居者の状況、活動報告、職員の異動・研修状況報告、行事予定など詳細な報告を行っている。会議でメンバーの方と顔馴染みになったり、問題のアドバイスもらったり、会議の効果があげているが、毎回の会議で意見や討議につながる会議には至っていない。今後の会議では率直な意見やアドバイスがもらえる工夫をされ、活発な会議になるよう取り組みを期待します。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時や電話連絡時において、ホーム側から入居者の様子や心身の状況報告を行い、家族からの要望や意見を聞き入れる姿勢である。その他運営推進会議や誕生会などの機会もあるが、家族からの意見、苦情は出ていない。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの周辺は畑で住宅が少なく、畑で出会う農家の人に挨拶したり、隣接の施設のデイサービス利用者が来訪される。地域の文化祭では作品の展示や販売を行ったり、郷土芸能の見学を行っている。地域の学校から運動会や音楽発表会に招待され出かけた。又中学校の職場体験学習受け入れや小学生・保育園児が2カ月に1回来訪があるなど交流が行われている。

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成19年10月に管理者と職員が話し合い、地域密着型サービスへの移行にそった理念をわかりやすい言葉でつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はミーティングでは常に理念の意識づけを行い職員は理念を共有している。更に玄関、食堂、職員室、廊下に理念の掲示をし日々の業務中においても意識できるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの周辺は畑で住宅が少なく、日頃は畑で出会う人に挨拶したり、隣接施設のデイサービス利用者の方の訪問がある。地域の文化祭には手作り作品の展示や販売を行い、郷土芸能の見学をしている。地域の学校からは運動会・音楽会への招待や又体験学習やボランティア受け入れなど交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価の意義や目的を十分に理解され、全職員に資料を配布し、昨年の資料を参考にしながら変わったところが無いか確認したり気づきを話し合いながら自己評価の作成に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3か月に1回開催している。ホームから入居者の状況・活動報告、職員の異動・研修状況、行事予定を詳細に報告している。会議メンバーと顔馴染みになり、問題提案に関してのアドバイスをもらいサービスの向上に活かしている。	○	運営推進会議は2か月に1回以上の開催を望みます。毎回の会議では意見の交換を十分に行っているとは言い難い。メンバーからの率直な意見やアドバイスをもらえる会議の工夫をされ、それらをサービスの向上に活かして頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は日頃より町担当者と顔馴染みでホームの実態を知ってもらったり、使わなくなった医療器具を譲り受けたり、問題解決の相談をして連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時には入居者の様子や心身の状況を報告している。遠方の家族には電話で報告している。金銭の預かりについては事務所で管理し来訪時に出納帳の確認をしてもらっている。急用や受診についてはその都度電話で報告している。	○	遠方の家族の方が半数近くあり、電話だけでなく日頃の様子を便りや写真などで報告して欲しい。金銭出納帳の確認も求めがなくても定期的にホーム側から積極的に開示され、確認してもらおうよう望みます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の半数が遠方のため全家族が揃う機会がなく、ご家族の来訪時、運営推進会議、誕生会で出会う機会には極力意見を求めている。電話時にも聞き入れる姿勢を心掛けている。ご家族から意見や苦情があったら、すぐ職員で話し合い検討し、改善するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者を馴染みの職員で支援できるよう努めている。職員同士のチームワークもよく過去1年間で離職者は病気による退職者1名である。後任の職員も法人の顔馴染みの異動で対応し新任と退職者と18日間勤務を重ねるなど利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の育成のため、包括支援センター主催の研修会や老施協主催の研修会には積極的に参加させ学習させている。参加者は他の職員に研修報告をしている。	○	ホーム内での研修は伝達研修に留まらず、今後はホーム内研修として管理者と職員で年間の学習計画を立て、計画にそった学習の取り組みを望みます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はケアマネ協議会で同業者と出会える機会がある。西之表で、てのひら工房主催でグループワークがあり施設長の計らいで島内のグループホームの集まりに職員は参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・ご家族が見学されたり、ショートステイの利用などで納得してから入居している。入居者や職員と顔馴染みである場合が多くスムーズな入居になっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴や得意分野を把握し(生け花の免許を持つてる人、洋裁の経験者、野菜作りをしていた人、戦争体験をした人...)得意なことができる場面作りの工夫をし、一緒に過ごしながらお互いに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者は入居時のアセスメントで本人の思いや意向の把握をしている。職員は毎日の生活の中で一人ひとりの言葉や表情の様子を日誌に記録している。管理者は記録からそれとなく本人に確認し真意の汲み取りに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	初回は本人や家族職員で担当者会議を行い、関係者の意見やアイデア、気づきを参考に話し合い利用者本位の介護計画を作成している。状況が変わらない次の担当者会議では家族の意向を電話で確認し、職員間で担当者会議をして介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化があれば1～2ヶ月に1回、変化がなければ3ヶ月に1回チェック式でモニタリングを実施している。見直しの時期には家族を呼び職員と情報を確認し要望を取り入れて計画の見直しをしている。終了する前であっても変化があった場合は検討し見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診は基本的には家族が付き添うことになっているが、家族や本人の状況に応じて受診に付き添うなど柔軟に支援している。入院になった場合お見舞いに行ったり、洗濯物やおむつを届けている。ショートステイの受け入れ、お墓参り、自宅訪問、外泊支援等柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望するかかりつけ医での受診支援をしている。協力病院には回診してもらったり、近くの公立種子島病院には緊急な夜間であっても受診の受付ができるなど適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームには看護師が居ないので、重度化で医療行為が必要となった場合対応ができないため入居時に説明をしている。病気が悪化した場合家族、職員、関係機関全員で話し合い、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営者は居室にトイレや洗面所を設置し、プライバシーの配慮をしている。管理者はミーティングにて入居者への声掛けや対応、外部者への守秘義務、書類の管理等に関し職員の意識向上を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが一人ひとりの状態に合わせて起床、食事、入浴、就寝等時間の差は本人のペースに合わせて対応している。入居者がその日をどのように暮らしたいかの意思表示は殆どなく職員が問いかけて確認している。このホームは顔馴染みで仲良く一緒にいたい要望が多い。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は野菜の収穫、山菜採り、下ごしらえ、盛り付け、片付けなど能力に合った作業を職員と共に行っている。入居者が食べやすいように調理や味付けに配慮し、見栄え良い盛り付け、旬の野菜を使うなど工夫を凝らし、一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望の入浴日時を支援をしていたが、一緒の日に入りたい希望が多くなり現在週3日午後3時からと入浴日時を設定して支援している。これ以外であっても入居者の希望やタイミングに合わせる用意もある。順番、湯加減、一緒に入浴する人など配慮しながら入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一日の生活の中で張り合いのある生活になるよう本人の得意分野(生け花、裁縫、野菜作り、洗濯干し、台所仕事...)を活かし能力に合った役割をしてもらっている。お誕生会、ドライブ、野菜作り、レクリエーション、歌、季節の花見...と生活にメリハリをつけ楽しみや気晴らしの支援を図っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は外での活動を勧めている。中庭は車椅子でも散歩ができるように遊歩道が整備され、花や野菜を楽しめるようにしてある。敷地外の散歩や山菜採りにも出かけ周辺の畑を眺め自然に触れ合い五感の刺激となっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は鍵をかける弊害を理解し、日中は鍵を掛けず自由に入出入りできるようにしている。入居者の外出傾向を把握し、注意して見守りを行っている。日頃から隣接施設と合同行事を行って顔見知りであり連携や協力体制ができています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防団の協力を得て隣の施設と合同で、夜間想定避難訓練を行っている。避難誘導に関しては日頃から職員間で対応方法を確認している。非常通報設備や法人全体の連絡網も掲示し、災害に備え米、水、野菜等の備蓄もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が立てた献立を参考に食改善推進委員がメニューの作成を行い栄養やバランスに気を付けている。調理はその日の当番が行い、朝、昼、夕の摂取量を日誌に記録して状態の観察をしている。水分補給についても必要量の把握をしており摂取できるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭が見える明るいホールには大きな雛壇を飾り、入居者の作品お雛様のタペストリーも飾ってある。丸テーブルを設置しており、テーブルの中央に季節の花が生けられ食台に使ったり、作業台に使ったり入居者の一日の大半はここで楽しく過ごしている。ソファも2か所ありそれぞれがゆったりとくつろげる居場所の工夫もしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはトイレ・洗面所・ベット・整理ダンスが備えてあり、それぞれ自宅から布団、写真、時計、花、人形、衣装ケースなど使い慣れた物や大切にしている物を持ち込んでおり、ベットが危険な人には畳を敷き、部屋が分かりづらい人には入口に目印の花を飾るなど居心地よく過ごせる工夫をしている。		